

ニュートン別冊『からだの検査数値 新訂版』（1刷） 正誤表

ニュートン別冊『からだの検査数値 新訂版』（1刷）に、以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

ページ	位置	誤	正
138	表「腎臓の病気」 1行目 「腎不全」 の説明文	前立腺が病的に肥大する状態。通常60歳以上で発病する。原因は不明。初発症状は頻尿、尿がとぎれるなど。治療としては薬物療法や外科手術。	慢性腎疾患、出血、長くつづく下痢などが原因で、体液中に代謝による老廃物や毒性物質がたまり、体液に異常が生じた状態。慢性と急性とがある。全身の倦怠感、吐き気、嘔吐、食欲不振などがあり、ほとんどの人が高血圧と貧血になる。悪化すると尿毒症へ進むが、最近では人工透析の発達によりその危険性は激減。
	表「腎臓の病気」 2行目 「急性腎炎・慢性腎炎」 の説明文	前立腺に発生する上皮性の悪性腫瘍。70歳以上の高齢者に多い。骨、とくに骨盤骨や腰椎に転移することが多いので、一部の施設では、健康診断のレベルで腫瘍マーカー（PSA）で検査するようになってきている。そのほか触診と生検による検査で診断される。初発症状は排尿困難、頻尿、便秘、腰痛など。治療としては女性ホルモン投与や精巣摘除が有効。	細菌の感染やアレルギーによる炎症。咽頭・扁桃炎にかかったあと、急性腎炎をおこすことも。急性腎炎の症状は血尿や尿量の減少、むくみ、血圧の上昇など。急性腎炎の発症後、または症状がなくても、尿タンパク陽性や高血圧が1年以上つづいている状態が慢性腎炎。慢性腎炎の症状は、むくみ、血圧の上昇、タンパク尿、血尿など。
	表「腎臓の病気」 3行目 「ネフローゼ症候群」 の説明文	頻尿、排尿時の痛み、尿混濁を主な症状とする膀胱の炎症。一般に尿道から逆行して細菌が入り感染するので、女性に多い。とくに排尿をがまんしたりするとなりやすい。排尿をがまんしないことが予防につながる。抗生物質の投与で治療を行うが、尿量をふやすことで治ることも多い。	腎疾患により、糸球体の機能が損なわれるために生じるさまざまな症状群。主症状は、尿タンパクが1日3グラム以上出ることとそれより生じる低タンパク血症、浮腫（むくみ）、血中コレステロールの増加など。小児に多いが高齢者にもみられる。むくみがでて気づくことが多い。自己免疫が関与しているともいわれている。
	表「腎臓の病気」 4行目 「尿路結石症」 の説明文	尿路に発生するがんのうち、最も患者数が多い。血尿が初発症状。その後、頻尿、排尿時の痛み、残尿感などの症状があらわれる。膀胱鏡でのぞくことで診断できる。	上部尿路（腎臓の腎盂から尿管まで）と下部尿路（膀胱と尿道）の尿路のどこかに結石ができた状態。従来は手術により結石を摘出していたが、最近では、大部分の結石は体外から衝撃波を当てて結石を砕く方法が行われている。衝撃波が届かない結石は、尿道から内視鏡を入れ、レーザーなどで砕く方法がとられている。